

# 2018年度 事業報告書

## 1) 事業の成果

### 《パレット》

#### 1. パレットの理念に基づいた事業の充実と安定した運営を図ります。

- ・青葉区民が安心して子育てができるように、運営している6事業を継続することができました。それに加え、学童保育室「いるかくらぶ」は運営委員のご理解・ご協力の下、法人運営への移管手続きを進めました。
- ・新しいメンバーが、理念について十分に理解し実践に結びつく働き方ができるよう取り組みました。
- ・子育てや介護など様々な事情がある中でも、スタッフが皆協力し合って働くことができるよう、各事業の安定的な運営について、メンバーで議論を重ねました。

#### 2. 子育て家庭をとりまく環境と社会情勢の変化に常に目を向け、見えてくる課題から、今後本当に必要とされる子育て支援とは何か、何ができるかを考え、取り組んでいきます。

- ・保育所不足と一時預かりの需要は増える一方であり、他の事業所などとも連携して緊急時のニーズに応えるように努めてきましたが、事業所の負担も大きく、乳幼児一時預かり事業のあり方は引き続き課題です。
- ・復職が早くなり、ひろばの利用期間が短くなっています。限られた期間でも密室育児にならないように、親子が学び育つ場づくりと復職前に地域とのつながりができる環境づくりに努めました。
- ・一時預かり、一時保育が、必要な時に利用できないという声が聞こえてきます。一事業所では難しいことも、他の事業所と連携することで解決できるように、子育て家庭の状況、問題意識を事業所間で共有しました。
- ・キャッチした子育て家庭が求める社会資源や支援を発信していきます。

#### 3. メンバー全員が、計画的に内外部の研修に参加できる体制を整えます。また、学んだことを共有してパレット総体の力を高めていきます。

- ・外部研修を受講し、法人としてのマニュアル作成を行いました。
- ・メンバー全員が今携わっている事業所内だけでなく、中長期的な視点でパレットの事業計画に沿って研修に参加して全体で共有することが必要であり、今後の課題です。

#### 4. 子育て家庭の視点からの防災・減災を、各事業所から発信していきます。

- ・自然災害が多発している近年、災害時に子育て家庭に必要な知識・知恵を伝え、家族で備えてもらえるように、避難訓練や防災講座などを実施しました。

#### 5. それぞれの子育て家庭が持つ多様な状況に寄り添い、ネットワークを駆使して必要な支援につながるように連携し、妊娠期から安心できる子育てを応援します。

- ・各事業所でみえてきた支援の必要な家庭や区などからつながれた養育支援が必要な人に対して、様々な機関と連携を密にし、タイムリーにサポートすることができました。
- ・複数事業所の兼務者を置くことで、日ごろから課題について話し合う時間を持ち、必要な支援にはスピード感を持って対応することができました。

6. 様々な世代に子育て支援の意義やパレットの活動について伝えていきます。理解を深めてもらうことで、子育て支援の輪をより大きく広げていきます。
- ・たまプラーザ郊外まちづくり（タウンミーティング）、市が尾ユースプロジェクトなど様々な会合に機会を捉えて参加することで、子育て支援の必要性やパレットを理解してもらえるように働きかけました。
  - ・市が尾第三公園愛護会の事務局を担い、地域のための活動も続けています。
  - ・もみじの家の活動に賛同して募金活動を行い、寄付金を届けることができました。
  - ・青葉区民まつりに親子で楽しめるブースで参加し、パレットの子育て支援活動と、パレットが応援している子育てタクシーの情報を区民に知らせました。

## 2) 事業内容

### ①特定非営利活動にかかる事業

#### 《まーぶる》

1. 子どもたち一人ひとりの気持ちやその活動を大切に、個々の成長を応援します。
  - ・一時預かりは、その日だけの預かりかもしれないという事を念頭に置き、楽しく過ごせるよう一人ひとりに応じたかかわりを心がけました。定期預かりは、継続したかかわりができるため、そのお子さんの成長と発達に丁寧に寄り添いました。振り返りやミーティングの時間では、子どもたちの様子について話し合い、保育に生かし、成長を感じ取ることができました。
  - ・お子さんの成長に合わせたチーム作りを行ない、活動することで、個々の育ちだけではなく、子ども同士のかかわりが持てるような保育を行なうことができました。
  - ・公園やお散歩、庭での外遊びを中心に行ない、体力をつけたり、四季折々の自然に触れ感受性を高めることを目指しました。最初は歩みが弱かったお子さんも往復しっかりと歩けるようになり、虫や鳥、草花を見つけ、季節を感じる力が付いてきました。
  - ・オカリナ演奏会、運動会、お芋掘り、お楽しみ会といった子どもたち参加型の室内外の活動を積極的に行ないました。
  - ・障がいのあるお子さんや配慮が必要なお子さんの利用も多くありました。その際はより丁寧な聞き取りを行い、安心して楽しく過ごしてもらえるよう工夫しました。
  - ・静と動を意識した保育を行うよう心掛けましたが、午睡等は個々の様子をよく見て、一律ではなく子どもの気持ちを優先させるようにしました。
2. いつでも子どもたちが安全に、安心して過ごせる保育環境を整える努力を続けます。
  - ・子どもたちが安全・安心して遊ぶことができるよう保育室内外の道具の点検、配置の確認や庭の手入れなどを継続して行ないました
  - ・防災訓練を毎月行い、様々な災害を想定し、時間、場所をランダムに計画して多くの子どもたちや保育者が訓練に参加できるようにしました。
  - ・消防署からアドバイスを受けて、地震の際の避難方法、消火器の置場など改善しました。
  - ・子どもたちが快適に過ごせるよう、大型滑り台の買い換え等を行ないました。
  - ・発達に応じた遊びを考慮して玩具をそろえ、子どもたちが遊びこめるようにしました。
  - ・嘔吐処理セットを、誰もが対応できるよう、わかりやすく作り直しました。
  - ・心肺蘇生訓練、消火訓練を毎月行い、保育者全員が非常時に備えました。

### 3. 保護者の気持ちに寄り添い、成長の共感、不安の受け止めを丁寧に行います。

- ・ 最初の見学登録時の説明を丁寧に行ない、保護者が安心して利用できるよう心がけました。
- ・ 預かり時は、笑顔で送り出すことを心がけました。また、お迎え時には1日の様子をお伝えし、ともに成長を感じられるよう心がけました。
- ・ 保護者への言葉がけに注意し、信頼関係を築くことが出来るようにしました。
- ・ 第1子を預けて安心された保護者から、第2子、第3子のお預かりにつながることも多くありました。
- ・ 通信の発行や保護者交流会を行なうことで、保育方針などを伝える機会を設けました。

### 4. 乳幼児一時預かり事業者として、その特徴を生かし、必要とされる支援を進めます。虐待防止など各機関との連携、共通理解、スキルアップを深めます。また、保育者がお互いに認め合い、チームとして保育していることの意識を高めます。

- ・ 緊急枠を設けることで、関係機関からの依頼にタイムリーに応えることができました。今後も継続していきたいと思えます。
- ・ 予約体制を大きく変更したことで、多くの親子に利用してもらうことができました。
- ・ 預かりについてのアンケートを行ない、利用者の率直なご意見を聞きました。また市に現状や要望を提出しました。
- ・ 保育者同士で連携を取り、安心安全な保育を心がけました。毎月のミーティングでは、子どもの様子や保育環境の確認を行ない、共通理解に努めました。今後も継続して行ないます。

### 5. 学生のボランティア受け入れを行い、実習を通して子育て支援について考える機会を提供します。

- ・ 中学生福祉体験実習（7名）、大学生社会参加実習（2名）、地域のボランティアの受け入れを行ないました。
- ・ 中学生、大学生については、保育に入る前に事業の説明、子どもとの関わり方を伝え、個々に目標を考えて実習に臨んでもらいました。終了後は振り返りを行ない、気づいたことを話す機会を設けました。子育て家庭について考える機会となったと思えます。
- ・ 子どもたちにとっても、普段の保育者とは違う人たちとの楽しい交流の機会となりました。

### 6. 地域とのつながりを大切にし、自治会行事などに参加していきます。

- ・ 自治会への加入を継続して行ない、夏祭りのお手伝いや防災訓練に参加して地域とつながりを持つ機会を作りました。また指定避難場所への避難を想定し考える時間を持ちました。
- ・ オカリナ演奏会では、区内で小さな子を持つ保護者のグループに依頼し、演奏してもらいました。

## ②子育て中の親子の交流事業

### 《びよびよ》

1. 近隣や親子に「いつでも安心して利用できる広場」があることを知らせます。広場の情報や地域の情報を通信やホームページで発信します。
  - ・ イベントの情報や普段の広場のようすをブログやホームページに載せ発信しました。アクセス数も徐々に伸び、ブログを見て広場に来る方が増えました。
  - ・ 地域の育児教室や子育て広場に出向き、通信を配布すると共にイベントの案内や広場情報など案内しました。
  - ・ 地域の公園4ヶ所に通信を掲示し、回覧板にも100部通信を入れ広報しました。
2. チームワークを大切にし、自主研修や外部研修を通して人材育成を行い、親子にとって必要とされる広場、居心地のよい広場になるよう努めます。
  - ・ 外部研修には積極的に参加し、スタッフ一人ひとりのスキルアップを高めると共に、スタッフ会議で共有し広場に活かすようにしました。
  - ・ 子育て支援員研修を受講することで、広場の在り方や親子への対応の仕方など、知識を深めることができました。
3. 親子の声を活かし、子育て家族が利用しやすい広場づくりを目指します。
  - ・ 初めて広場に来る子育て家族や親子にとって利用しやすいよう、初回見学無料から、初回利用無料に変更しました。
  - ・ 小さい子どもでも公園に遊びに行けるよう、また地域を知るきっかけ作りなるよう「びよさんぽ」という企画をもうけ親子で楽しむことができました。
  - ・ ビジター利用を希望する方、また同年齢の子どもの親子で交流することを希望する0歳児、1歳児の家族が利用しやすいように「Baby タイム」「1歳児さんあつまれ！」を定期的にもうけました。
4. 地域で子育て支援をしている方との交流や情報共有、地域活動の積極的な参加など、繋がりを大切にしていきます。
  - ・ びよびよに隣接するスターチャイルド江田ナーサリー保育園の読み聞かせに行きました。広場での読み聞かせとは違う新鮮さを親子で感じてもらうことができました。
  - ・ 山内図書館の方に手遊びや絵本の読み聞かせをしてもらいました。また、図書館主催の読み聞かせにも親子で参加することができました。
  - ・ 地域の夏祭りに広場を無料休憩所として場所を提供しました。親子が遊んだり、つどいの広場がある事を周知することができました。
  - ・ 江田地域の公園清掃や、防災訓練の参加、国道246号沿いの草むしりのボランティアなどに参加し、地域の方々と交流する機会を持つことができました。これからも地域参加をしていきたいと思えます。
  - ・ 國學院大學「絵本キャラバン」と連携して絵本の読み聞かせを行ってもらい、大学生と親子の交流の場ができました。
  - ・ 季節のイベント（ハロウィン）では地域の方に協力いただき、親子で交流する機会をもつことができました。

## 5. パレットの各事業所や地域、行政と連携を深め、子育て家族を応援します。

- ・他事業所の運動会やお餅つき大会などの行事に利用者親子が参加し、地域の方と交流ができました。
- ・まーぶるの登録説明会を広場で行い、保育室の様子や子どもとの関わりや遊びなど、直接聞くことができ安心して登録してもらうことができました。
- ・地域の保健師、赤ちゃん訪問員の方と連携することで、子育て親子や家族の利用に繋がりました。
- ・区主催の「虐待防止連絡会」や青葉区地域子育て支援拠点と青葉区内の親と子のつどいの広場事業者による「青葉ひろば会議」に参加し研修、交流、情報交換を行ってきました。

## 《ぶーぶーしえすた》

### 1. なじみのない地域で子育てしている親子や育休中の親子などさまざまな親子が地域とのつながりを持ち、親子で安心して過ごせる居場所を目指します。

- ・週5日常設で広場を開催し、積極的にイベントなどで広場に来やすい環境を作り、誰でも温かく迎え入れ、安心して過ごせるように家具やおもちゃ、本などの環境を整えました。
- ・利用者や親子ボランティアが広場の雰囲気づくりに参画し、助け合う場になりました。
- ・手作りの日は物づくりに集中し、利用者さん同士が交流できるイベントとなりました。
- ・広場玄関にイベントの紹介やのぼりを置き、地域の方にも存在を知ってもらえました。
- ・育休の方向けのおしゃべり会は保育コンシェルジュさんをお迎えして開催しました。たくさん親子が利用し、とても好評でした。

### 2. ワーカー・スタッフ・ボランティア（親子ボランティア含む）のチームワークを大切にしていきます。

- ・毎月行うスタッフ会議で配慮の必要な方などの情報を共有し、相談内容は個人情報を保護し、外部にももらさないことを厳守し、問題提示をし、よりよい広場になるよう話し合い、場合によっては地域の保健師や子育てパートナーに相談し、丁寧な対応に努める体制を維持することができました。
- ・スタッフや地域ボランティアは利用者が話しやすい雰囲気を作り、寄り添う姿勢を大切に、日常の悩みや育児不安を話せるように努めました。

### 3. 地域交流に継続して取り組み、地域活動に積極的に参加していきます。

- ・たまプラーザ地域ケアプラザ、山内ひろばなどで出張ひろばや夏祭りに参加しました。
- ・たまプラーザ次世代タウンミーティング、保育子育てネットワーク作り、ファミリーリソースプロジェクトなどに積極的に参加し地域の情報交換をすることができました。
- ・地域育児教室や子育てひろばで親子の触れ合い遊びやお話し会をすることができました。
- ・たまプラーザ商店街の夏祭りに参加し、良い交流の場となっています。

### 4. 他の親と子のつどいの広場事業所やパレットの各事業所とも連携して子育て支援の充実に努めます。

- ・青葉区ネットワーク会議に参加することで、保育園、療育センター、センター園の方の話を聴くことができました。
- ・青葉ひろば会議に出席し、それぞれの広場と連携し情報共有しました。

- ・まーぶるの登録説明会や横浜子育てサポートシステム入会説明会など各事業所の情報などを利用者へ伝えました。

#### 5. 広場での情報提供、毎月の通信の発行、ブログで広場が身近にあり、気軽に来てもらえるよう情報を発信していきます。

- ・福祉保健センターからのお知らせや商店街の方々や自治会の方々からお祭りの情報や親子も楽しめるイベント情報を見やすい所に掲示しました。
- ・保健師が開催している育児教室や地域の子育て支援者が行っているひろばで、広場の活動紹介やイベントの案内をしました。
- ・自治会の掲示板に毎月通信を掲示しました。
- ・ブログや通信（毎月発行）で広場の様子やイベント報告、今後の予定を広報しました。
- ・たまプラーザ地域の保育園情報などファイルし知らせることができました。

### ③保育室での保育に関する事業

#### 《なないろ（小規模保育事業）》

#### 1. 子どもたちをよく見て、一人ひとりの発達課題を把握し、心身の成長をしっかりと支える保育をしていきます

- ・子どもの年齢・発達段階に応じた保育を行うとともに、子ども一人ひとりの日々の様子を丁寧に見守り、個々の状況に応じた関わりを心がけることで、子どもたちそれぞれが自己を発揮し、のびやかに活動する姿が見られました。
- ・保育者との安定した関わりの中で、子ども一人ひとりが安心して毎日の生活を送り、基本的な生活習慣を身に付けていくことができました。
- ・療育センターの職員の巡回相談を受けることで、個々の子どもへの接し方等、アドバイスをもらうことができました。

#### 2. 家庭との連携を深めながら信頼関係を築き、保育者と保護者がお互いに良きパートナーとして、ともに子どもの成長を支え合っていきます

- ・連絡帳の記入や、送迎時に子どもの様子についての丁寧な対話を重ねることで、保護者との信頼関係を築くことができました。
- ・子育てについてや、なないろへの要望などに関するアンケートを行い、希望者とは別室にて個人面談の機会を持ちました。保育室と家庭それぞれでの子どもの様子と対応を共有し、協力して子どもの育ちを支えることができました。
- ・日々の保育の中で見られる、子どもたちの様々な姿・表情を撮影した写真や、保育参観では、実際に公園で遊ぶ姿を保護者にも見てもらうことができました。

#### 3. 併設の一時預かり保育室とともに活動する機会を通して、子どもたちが交流の幅を広げ、新しい体験ができるように見守ります

- ・一時預かり保育室とは、毎日のお散歩や製作活動、わらべ歌遊び、リズム遊びを一緒に行う中で、様々なお友だちと接することにより、いろいろな経験ができ、成長につながりました。

- ・一時預かり保育室の職員とともに、日々の預かり人数や子どもの様子、当日一緒に行う活動についての事前打ち合わせを行い、情報共有をすることで、安全に活動することができました。

#### 4. スタッフ間の連携を深め、保育内容の充実と保育技術の向上に努めます

毎日の振り返りやミーティングでは、子どもたちが過ごす環境とその活動について、十分な話し合いをしながら、チームワークよく保育に当たります

- ・毎日の振り返りと月1回のミーティングにて、子どもたちの様子や配慮すべきことを共有し、課題についての意見交換を重ねることで、共通の認識を持ち、より良く連携して保育を行うことができました。
- ・常勤職員だけでなく、保育補助のスタッフにも外部の研修に参加し、ミーティングにて報告を行うことで、職員全体の技術向上を進めることができました。

#### 5. 地域との交流を大切にしていきます。連携園や関係機関とのよりよい関係作りにも努めます

- ・連携園のいずみ青葉台保育園とは、健康診断、歯科検診や園庭利用の他に1歳児・2歳児クラスとの交流保育も行いました。
- ・近隣の認可保育園のお話会に参加させていただきました。
- ・榎が丘小学校での防災拠点訓練に参加しました。また、自治会と協力して、マンション居住の皆さんに、青葉区報や回覧板などで、地域の情報を伝える窓口となりました。
- ・保育に関して行政からの巡回訪問や監査を受けて、第三者委員の選定や嘱託医との契約を結びました。指摘を受けた件については、職員全体で検討し、改善に努めました。

#### 《なないろ（一時預かり）》

##### 1. 0～2歳児、定員7名の少人数の保育室の良さを生かしたきめ細やかな対応を行います。それぞれの発達過程にあった丁寧な保育を行い、子ども達が安心して過ごせる保育室にしていきます。

- ・子どもたち一人ひとりが、安全に楽しく過ごせるよう、受け入れ時には保護者からの聞き取りを丁寧に行い、子どもの姿を観察して個々の成長やその日の体調に応じて細やかに対応しました。
- ・子ども一人ひとりが、居心地の良い場所になるよう保育者3人で、声を掛け合いながら、丁寧に保育しました。

##### 2. 保護者の気持ちや悩みに寄り添うことで、育児をサポートできるよう努めます。また、より一時預かりを必要とする家庭が利用できるよう関係機関と連携していきます。

- ・見学登録時には、安心して預けられる場所また、預けることに抵抗が少しでも軽減するように丁寧に話をすることを心掛けました。預けることに後ろめたさを感じていた保護者からも「ここがあってよかった。」「（預けて）少し離れていて又一層子どもがかわいく思えた。」という声を聞くことができました。
- ・発達、発育、育児に不安を抱えている保護者の悩みをじっくりと聞き、子育てに寄り添えるように努めました。
- ・関係機関と連携して、子育てに悩んでいる保護者の方に笑顔になっていただくこともできました。

3. 事業を継続し、より良いものにしていけるよう、安定した運営をめざしますと同時に、横浜市への制度改善の必要性を訴えていきます。
  - ・利用者にアンケートを実施することで保護者からの一時預かりの必要性、一時預かりの改善の要望など、利用者の意見を横浜市に繋げました。
  - ・厳しい財務実態を伝え、補助体制の改善を訴えました。
4. 小規模保育室併設型一時預かり保育室として、スタッフ相互の連携、合同での保育など併設型としての良さを生かしていきます。
  - ・小規模保育室の子どもたちとの公園遊びや室内遊びなどにより、一時預かり保育室だけでは難しい年齢に応じた遊びなども取り入れることができました。また、お互いに刺激しあう中成長につながりました。
  - ・一時預かり保育室、小規模保育室のスタッフみんなで、どちらの保育室の子どもたちの成長を見守ることができました。
  - ・スタッフ相互の連携はスムーズにいかないこともありましたが、一時預かり保育室、小規模保育室の子どもたちの成長を考え何度も話し合いを重ねました。
5. パレットの理念をもとに、一時預かり保育室として目指すべきものを、スタッフ間で話し合い、保育にあたります。振り返りやミーティングを通して相互にスキルアップを図ります。
  - ・時間の許す限り日々振り返りの時間を設けるよう努力し、また月1回のミーティングで子どもたちの様子を共有し、理解し次の保育につなげるようにしました。
  - ・研修で学んできたことはミーティングなどで共有しました。定期的な自主研修をする機会がなく来年度は小規模保育室と協力して、自主研修を定期的に設け、スタッフのスキルアップを図っていきたいと思います。

## ④その他この法人の目的を達成するために必要な事業

### 《ラフル》

1. 拠点事業の周知に努め、広く区民にラフルを知らせていきます。
  - ・区との協働で母子手帳配布時や転入時にラフルリーフレットを配布、また母子訪問や赤ちゃん訪問、両親教室などで当事者への広報周知に努めました。
  - ・区の広報紙、ラフルのHPやニュース、健康フェスティバルや区民向け講習会の広報を通しての発信により、広く区民にラフルの存在を知らせることができました。又、小中校長会や地域で行なわれる会議などでもラフルの事業や役割を紹介しました。
2. 出産前からつながる子育て支援をめざし、様々なネットワークを活かして働きかけていきます。
  - ・HPに「出産を控えたご家庭へ」のページを作成した他、継続してパパの子育て教室を開催しました。また、母親教室へも案内に出向き、帰路サテライト寄ってもらえるように「プレママサロン」などを実施しました。
  - ・「プレパパプレママラフル見学説明会」や「おなかの赤ちゃんに絵本を」など妊娠期の企画を増やし、妊娠期からラフルが利用できることをアピールしました。

3. ラフルとラフルサテライト双方の利点を活かし、連携して運営していきます。
- ・ラフルサテライト開設に当たっては、地理的な条件をそれぞれの利点としながらも同じ施設であることを強調してきましたが、次第に違いも出てきて利用者が使い分けている様子も見受けられ、今後は双方の利点を積極的に伝えていきます。
4. 青葉区の子育て支援関係者が互いに理解し合い、子育て家庭を見守るための連携を図ります。
- ・拠点事業の胆であるネットワークづくりには長い年月も要します。「子育てネットワーク連絡会」や出向いていく「ラフルひろばmini」をはじめ、各種会議や施設間のつながりの集まりには積極的に参加して関係性を築いています。
  - ・昨年度に引き続き「青葉区の一時的保育・一時的預かりを考える会」を開催するなど、今助けを必要としている子育て家庭に手を差し伸べられる体制作りのために各所と連携を図りました。
5. 多様な子育て家庭や子育ての考え方を受け入れるとともに、親も子も育つひろばづくりをしていきます。
- ・国籍、年代など多様な子育て家族が増えてきています。一人ひとりの考え方をまず受け入れ、それぞれに必要な応援ができるようにスタッフのスキルアップに努めました。
  - ・ひろば利用期間が短くなっています。短期間でも情報や知恵を伝え、親も子も育つひろばになるように工夫を凝らしました。